資料４

第３回高松市創造都市推進懇談会　摘録

日時　平成 25 年 4 月 9 日(火)　18 時 30 分～20 時 30 分
場所　四番丁スクエア　会議室
出席　委　員：人見，辻，中筋，中田，英，広野，真鍋，鎌田，長田，
　　香西，西成，星島，山家
　　高松市：宮武、松本、佐々木、佐野、溝渕、高田、永木
　　アルパック：森岡、江藤

１．開会

事務局より開会の挨拶を行った。

２．前回欠席委員の挨拶

人事異動に伴う課長，担当職員の挨拶
議事進行について。
事務局とアルパックの中の U-40 がメンバーに入る。

３．異業種交流空間交流事業について

資料について事務局から説明を行った。
（意見交換）

会　長ｏ私の考える創造都市の目的は地域振興である。その先に交流人口の増加があり産業の創出がある。
　　ｏ共通認識をもつために，創造都市とは何なのか，それぞれが考える創造都市についてメンバーの意見を聞きたい。

委　員ｏU-40 世代の市民がいかに行政の仕事やまちづくりにからんでいくか。仕事でからんでいくのはなかなか難しい。どんな仕組みがあれば若年世代が関わっていけるかを考えたい。

委　員ｏ高松市は豊富な資源，人材，産業も多くあるけど，横のつながりに乏しいと感じる。横のつながりを促進してあたらしいものを生み出していくのが創造都市なのでは。

会　長ｏ第 4 回審議会の中で,「分野ごとに計画を作る時代は終わっている」との発言もある。

委　員ｏ市民みなさんが参加しないと意味がないもの。この間芸術祭で，地元のおじいちゃんがウォーキングを兼ねて参加していたのが創造的だと思った。
　　ｏ外部から来たメンバーは感じているが，いつも決まったメンバーがいつも決まったことをして，いつも決まった結果を出している。それを成功だというならもっと成功するようにしていかないといけない。
　　ｏ我々U-40 と新たな人が関わっていけたら楽しいのでは。例えばU－40 の会議そのものもまちテレなどで発信してみては。一般の方がみてどう思うかも参考になるのでは。
　　ｏ「創造都市」の答えはわからないけど，わかりやすく市民に伝えるのが我々の仕事ではないか。難しい言葉は使わずに，一般の方を遠ざけないように気をつけなければならない。

委　員ｏ創造都市から産業の創出までつなげるとどんどんビジネスっぽくなってしまう。そこのジレンマ。行政との関係の中で新しいものが生まれれば。

委　員ｏ市民ひとりひとりが意識を持つことが大切だと思う。参加型にすることが創造都市につながる。自分のなかでも創造都市について明確なビジョンが持てていない。答えを探しながらやっていくこと。

委　員ｏ生活スタイルに結びついてないと意味がない。いまある文化をリノベ・リデザインしながら何かを生み出していくイメージ。既存団体や伝統も大切にしつつ，若者が入っていけるようにコーディネートするのが我々の役目では。

委　員ｏ創造都市ってなんだろうって考える機会を設けることが大切。言葉がひとり歩きしないように。瀬戸芸やさぬき映画祭でクリエイティブな方がどんどん来ているのに，なかなか交流できる場所がないのがもったいない。

委　員ｏ単発のイベントで人を呼ぶよりも外国人や県外の人が一定期間でも滞在してくれる滞在しやすい町になればいい。創作しやすいまちにできれば。

ｏ芸術士の派遣事業をしているが，アートの線引きをしないことが大事。これは創造でこれは創造でないとかの線引きはしたくないし，そのこと自体創造的ではない。創造っていうのはひとそれぞれなので，共用できるような懐の深さも必要。

会　長ｏいまの発言に対して，第４回審議会の発言の中で「価値判断の軸となるようなもの」というワードがあるが，線引きするという意味のラインではなく，そのラインを目指してそれぞれが高めあえるような空気感や，土壌作りが必要ではないか。

委　員ｏ地域コミュニティでやっている活動の大きい版かなというイメージ。歌舞伎の例で言うと，人が集まって連携して，ひとつのお祭りをする。県内外からお客が集まり，まちも潤う。これを文化，産業，スポーツにおきかえて魅力あるまちになることで，高松が発展していくのでは。

委　員ｏひとことで言えば，心の豊かさを目指す，そして最終的には価値観の変化を目指すということかなと思う。

ｏ例１

金沢市への視察での話。いまの日本はご飯を食べて寝るだけで幸せというステージは過ぎている。それ以外のさまざまな文化活動などを通して幸福感を感じているのでは。

ｏ例２

収入はかなりあるけどあまり幸せそうにみえない友人。人間性の回復，こころの豊かさを享受できるような都市になれば。

ｏこころの豊かさについて，なにがその人にひっかかるかはそれぞれなので，都市として幸福感を感じるチャンネルを多く用意することが大切。

ｏ交流や活動によって経済が生まれる。それぞれが活性化することで経済活動が生まれ，好循環が生まれる。

ｏ連携や交流も大事な手法である。各々が考えるだけでなく，内外の交流によって刺激となって，新たなものが生まれる。またそれに伴い，創造的人材が集まりやすくなる。

委　員ｏ自分はものづくりをやっているが，現状で足りないものは人材交流だ。人材交流による化学反応，地域資源の活用もできていない。ひと・もの・こと作りを進めて，ライフスタイルの提案をしていきたい。

委　員ｏどういうものが創造都市なのかを考えること自体がナンセンスでは。あとからラベリングした言葉であって，創造都市だといわれている都市も，創造都市を掲げてやった結果ではないと思う。

ｏ高松市を大きな家と見立て，住んでいる人を家族と見立てるとお金じゃなくて楽しいことができるかも。

ｏアート・料理・音楽などクリエイティブといわれているものは，言語を介さずにできるコミュニケーションの媒体でもある。これをうまく使ってなにかできれば。

委　員ｏ何かを生み出すのは大変なこと。クリエイターを呼び込みたいならもう少し危機感をもつべき。建築家の安藤さんの言葉。「香川では生活はできるけど，人が生きていく上で必要な文化がない。」

ｏ単発ではいけない。ここでやっていこうと思わせるような土壌作りが必要。高松にはこういうおもしろい仕組みがあるというものが必要。

委　員ｏそこに住んでいる人が活き活きと暮らしていくということ。ワクワク感があるまち。お金稼ぎ以外の活動にも力を費やせる小さな暮らしができる土壌であることが高松の魅力のひとつかなと思う。

会　長ｏ異業種交流空間創出事業の要綱についてご意見は？生みの親の英委員からなにかあれば。

委　員ｏもともとの発想は丸亀町商店街のやっている「盆栽カフェ」からきている。Bonsai×Something というスタンスでコラボしていく。

ｏ運営管理団体を設けて，ただの喫茶店にならないようにしないと。

事務局ｏルール作りをするにあたって，行政だけで考えてはつまらないものになっちゃうかも。外の人がみたときに，目的もわかっていいものが集まるようなルール作りをしたい。

委　員ｏ誰が交流するためのもの？高尚なもの？しゃべってもいい空間？

委　員ｏ県外の人が主体になってもいい？

事務局ｏ市内要件を設けるかはいま悩んでいるところ

委　員ｏ高松市を中心に活動している人という言い方にしては？

委　員ｏチームラボがプロデュースしたメイドカフェ。ここがプロデュースしたというだけで人が集まる。誰か著名人を呼ぶのは？

委　員ｏもし外の人を呼ぶなら，ピンポイントで呼ばないと来てもらえない。このままだと，U-40 メンバーならどこかでみたことのある人がやっておしまいになるのでは。我々 U-40 も出会ったことのない人と出会いたい。

委　員ｏ1ヶ月ずつの2団体では簡易で安っぽいものしかできないのでは？

ｏ飲食店のコンサルタント経験もあるが，1ヶ月では飲食店を軌道には乗せられない。

ｏ誰に交流してほしいのか明確に決めないといけないのでは？

委　員ｏ市美術館の改修については？金沢では，21 世紀美術館ができて，具体的な活動拠点となったことが大きい。高松版の 21 世紀美術館ができれば。文化がないという意見を肝に銘じないといけない。ただ，市美術館改修がこの時期にあるのはとても幸運なこと。

局　長ｏ美術館改修については，予算上の制約もあるので，がらりと変えるのは難しい。

委　員ｏたとえば入り口をガラス張りにして外にあふれるような空間にするなどいろんな意見がある。我々の意見も反映してもらえれば。この改修は創造都市を考える上で重要

な問題である。

局　長ｏみなさんの考えを仕組みのなかに組み込んでいくことは可能。

参　事ｏ今回の美術館カフェは最終的に市民の理解を得るための実験。どういうコンセプトならうまくいくか。大きな成功のためのスモールサクセスを作るのが目標。

委　員ｏ誰のためのカフェなのか？著名人と気さくにお茶が飲めるカフェなのか？職人さんとのふれあいなど県産品でせめるカフェなのか？

委　員ｏ今回のカフェが，高松市の意気込みや「創造都市」という言葉を露出していく１発目なのでは。何のためのカフェなのかが大事。

会　長ｏ誰のためのカフェか。「創造的人材と市民が触れ合える機会の創出」や「競争力のある地域資源の情報発信ができる場」などいろいろあるが。

委　員ｏ誰に見てもらって，何を感じてもらいたいのか？

ｏ高松市内に有名なアーティストがそんなにたくさんいるわけじゃない。クリエイティブな人との交流なら，地域的な制限はないほうがいいのでは。地域資源の制限もいらないのでは。

委　員ｏ県外から人を呼ぶなら，寝泊りなどのサポートが必要。

委　員ｏ今回のカフェのように，場所代をとらずに委託料まで払って事業をする，こんなフレキシブルに対応する高松市というのも創造的なのかなと思う。

委　員ｏ高松の文化レベルをあげるには，こんな人がここでこんなことをしているよとアピールできるようなイベントが必要。広告宣伝費にもなる。

会　長ｏ委託された団体と U-40 との関わりサポートを通してプラットフォーム作りにつなげられるかも。

委　員ｏいろんな人に集まってもらうということに注目するなら，カフェの実施団体より，その仕組みを作る人にマネジメントしてもらう。

委　員ｏ芸術士さんがいて教えてくれる場所にしても楽しそう。芸術士さんに会える機会にしてもいい。

４．「創造都市推進ビジョン」主なプロジェクトについて

会　見ｏ創造都市におけるスポーツの立ち位置・イメージについて。いまアートよりになっているものをニュートラルに戻すイメージ。

事務局ｏ骨子案の説明

委　員ｏ高松トライアスロンの活動は創造的。やり方，市民の巻き込み方，見せ方もかっこいい。看板やちらしも。外国の方との交流もできている。

委　員ｏ今回,創造都市のなかにスポーツを文化としてみる視点をもっている高松市ってすごいと感じた。日本は昔から運動と文化を分けてしまっている。スポーツは教育的側面が強い。少年団では少子化でチームが組めない。小中高大で入学卒業を繰り返すので，年を重ねるごとにスポーツを続ける人が減っていく。

ｏ続けていくこと，無理なく日常に組み込んでいけることが大切。体育の側面が強くて，純粋にスポーツを楽しめない環境だし，楽しいことは悪いことみたいな風潮があって，スポーツを楽しむことに抵抗がある。

ｏいま各団体がスポーツの価値を高めようとがんばっている。スポーツツーリズムが盛

んになってきている。スポーツ＋α（例：観光，食育，世代間交流,介護,リハビリなど)。体育からスポーツへ,若い人が変えようとがんばっている。

会　長ｏ認識を新たにした。

委　員ｏ楽しんでやるスポーツと激しいスポーツの間をつなぐものがないのも課題になっている。どうコーディネートしていくかが課題。

会　長ｏたとえば異業種交流空間創出というテーマだと,スポーツはどういうアプローチができるか？

委　員ｏ手近な例でいうと,香南町の地域にある神社を学芸員さんが紹介してまわって,その後空港公園までウォーキングしてニュースポーツ（キンボール,フライングディスクなど）を楽しんで,地域の名所を紹介しながら帰って,メンバーさんがボランティアで打ち込みうどんを用意してくれていて,みんなで食べるイベントがあった。ウォーキングを絡めると結構なんでもできそう。

委　員ｏ僕もスポーツは文化だと思っている。サッカーとＪリーグの関係。20 年前と今を比較すれば一目瞭然。

ｏ見る文化＋やる文化（こどもたちのスポーツクラブから裾野を広げる）

ｏ地方都市でスポーツチームがこんなにたくさんあるのは珍しいこと。

ｏカフェとのからみでは,写真や映像を流したり,選手との交流,チーム再建話などができるかな。

委　員ｏスポーツ関係者はスポーツ関係者だけでかたまりがち。自分はここで異業種の方たちと出会えたことで,自分の殻をやぶっていきたい。

ｏ世代間交流でいうと,「総合型地域スポーツクラブ」に関わっている。多世代交流は当たりまえにしていこうというもの。こどもとおばあちゃんが一緒のコートに入ってスポーツをするようなもの。スポーツコンパもありかな。

会　長ｏアートが上手い下手の価値軸がなくなってきているように,スポーツも上手い下手の価値軸がなくなればいいな。

委　員ｏ高知であった高知の「おきゃく」というイベント。テレビの SASUKE（サスケ）の小さい版みたいなイベントをやっていた。子どもたちがとっても楽しんでいたので,競わすことも大事かな。

会　長ｏそろそろ時間になりましたが,カフェの案についてなにかあれば。

委　員ｏテーマ別の婚活カフェも楽しそう

会　長ｏ今後のスケジュールについて

事務局ｏスケジュールについて説明。次回は 5 月 21 日（火）～24 日（金）で日程調整メールする。

（以上）